

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

甲第五十二号

(発行年 / Year)

1910

甲第五十三條 明治三十八年十二月六日配付

第二節 婚姻ノ效力

第八百五條 妻ハ婚姻ニ因リテ夫ノ家ニ
入ル

入夫及ヒ婿養子ハ妻ノ家ニ入ル

〔參照〕 七三五、七四一、八二四三、十二年
二月二十五日內務省指、澳九一、九二、蘭
一六〇、仔一三一、瑞千八百七十四年十
二月二十四日法二五、四項、獨二草一二
五五、加一五六、紐、草七六

第八百六條 妻ハ夫ト同居スル義務ヲ負

夫ハ妻ヲシテ同居ヲ為サシムルコトヲ要ス

(參照) 人六五、八四、八五、佛二一三、二一四、澳九二、蘭一六一、伊一三〇乃至一三三、獨一草一二七二、一二七三、同二草一二五三、一二五四、加一五六、一五七、一八二、紐草七六、七八、八五

第八百七條 夫婦ハ互ニ扶養ヲ為ス義務

ヲ負フ

(參照) 八八四、佛二一二、二一四、澳四四、

九一、蘭一五八、一六二、二項、伊一三〇、一

三二、一三三、獨一草一二八〇、一二八一、

一四六〇、同二草一二六〇、一二六一、加

一五五、一八一、一八二、紐草七五、七七、八

四八五

第八百八條

夫婦間ニ於テ契約ヲ為シタ

ルトキハ其契約ハ婚姻中何時ニモ夫
婦ノ一方ヨリ之ヲ取消スコトヲ得但第
三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

(參照)

取三五、三六、一〇九、二項、三六七、

佛一〇九六、一五九五、一七〇七、豫一五

〇三、葡一五六四、一五六七、ザ一、一二

五、西一四五八、印千八百六十五年相續

法四、三三一、加一五八、紐草七九

第三節 夫婦財產制

第一款 總則

第八百九條 夫婦婚姻ノ届出ヲ為スマ

テニ其財産ニ付キ別段ノ契約ヲ為ササルトキハ其財産關係ハ次款ニ定ムル所ニ依ル

(参照) 取四二四、佛一三八七乃至一三

九四、一四九七、一五二七乃至一五二九、

獨一草一二八六、一三三三乃至一三三

五、同二草一二六五、一二六七、一三三一

一三三八乃至一三三三、一三三五、加一

五九乃至一六一、一八三、一八四、紐草八

〇

第八百十條

外國人カ日本ニ於テ其財産

ニ付キ別段ノ契約ヲ為サスシテ婚姻ヲ

為シタルトキハ其財産關係ハ夫ノ本國

ノ法定財産制ニ依ル但嫁資財産ヲ讓渡

シ得サルモノトスル規定其他公ノ秩序

ニ反スル規定ハ此限ニ在ラス

(參照) 取四二五、佛一三八七乃至一三

九〇、獨一草一三三四、二項同二草一三

三二、二項加一五九、紐草八〇

第八百十一條

夫婦ノ法定財産制ニ異ナ

リタル契約ヲ為シタルトキハ婚姻ノ届

出マテニ其登記ヲ為スニ非サレハ之ヲ

以テ夫婦ノ承継人及ヒ第三者ニ對抗ス

ルコトヲ得ス

(参照)

取四二二、一項、佛一三九一、四項、

一三九七、獨一草一二九一、一三三六、一

三三七、同二草一三三四、一項、加一八五

第八百十二條

夫婦ノ財産關係ハ婚姻届

出後ニ之ヲ變更スルコトヲ得ス但夫婦

ノ一方カ他ノ一方ノ財産又ハ共有財産

ヲ管理スル場合ニ於テ管理ノ失當ニ因

リ其財産ヲ危クスルトキハ他ノ一方又

ハ其推定相續人ハ自ラ其管理ヲ為シ又

ハ第三者ヲシテ之ヲ為サシメシコトヲ

裁判所ニ請求スルコトヲ得

共有財産ニ付テハ前項ノ請求ト共ニ其

分割ヲ請求スルコトヲ得

(参照) 取四二二、二項、四三二、佛一三九

五乃至一三九七、一四四三乃至一四四

九、一五四三、一五六三、獨一草一三二七、

一項、二号、三号、一三二八乃至一三三三、

同二草一三一七乃至一三一九、一三二

四乃至一三二九、一三三一、加一五九

法典調査會

第八百十三條 前條ノ規定又ハ契約ノ結

果ニ依リ管理者ヲ變更シ又ハ共有財産

ノ分割ヲ為シタルトキハ其登記ヲ為ス

ニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ

第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但其請求

ヲ為シタル推定相續人ニ對抗スルハ此

限ニ在ラス

(參照) 併一四四五一項、一五六三、獨一

草一三三〇乃至一三三二、一三三六、一

三三七、二草一三三〇、一三三四、二項、加

一六〇

第八百十四條 夫婦力如何ナル財産制ニ
依ル場合ニ於テモ夫カ妻ノ財産ヲ管理ス
ルトキハ裁判所ハ妻ノ請求ニ因リ夫ヲシ
テ其財産ノ管理及ヒ其返還ノ擔保ヲ供セ
シムルコトヲ得

參照 擔二〇四、一號、二一六、二二六、佛六
〇一乃至六〇四、一五三三、一五五〇、一五
七二、二一二、一、一項、二項、二一二、二一三
六、二一三八乃至二一四〇、二一四二、二一
四四、二一四五、蘭一二一七、三項、四項、伊一
九六九、四號、一九八二、一九八四、二〇二六、
二〇二七、白草二二五六乃至二二五八、同
千八百五十一年十二月十六日法四七、六
四乃至七二、獨一草一〇〇五、一〇二〇、一
〇三六、一二九二、一二九四、同二草一二九
〇乃至一二九三

第二款 法定財産制

第八百十五條 夫ハ婚姻ヨリ生スル一切ノ費用ヲ負擔ス但妻カ戸主タルトキハ妻之ヲ負擔ス

前項ノ規定ハ第八百七條及ヒ第
條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

(參照) 人二六、取四二六、併一五三〇、一
五三四、獨一草一二九、一項同二草一
二七〇、一二八八、加一八一、一八二、紐草
七七、八四、八五

第八百十六條

夫又ハ女戸主ハ婚姻ヨリ生スル需要ノ為メ用方ニ從ヒ其配偶者ノ財産ノ使用及ヒ收益ヲ為ス權利ヲ有ス

妻又ハ入夫カ受クヘキ終身定期金ハ之ヲ果實ト看做ス

妻又ハ入夫ノ債務ノ利息ハ其財産ノ果實中ヨリ之ヲ控除スルコトヲ得

〔參照〕 九一、九二、財五〇乃至六六、取四二六、四二七、四三三、四三四、佛一五三〇乃至一五三三、一五五一、一五五二、一五六二、一項、一五六六乃至一五六八、獨一第 一 二 八 三 乃至 一 二 九 四、一 二 九 六、一

法典調査會

二九七、一項、四号、二項、一二九八、一二九九、一三二二乃至一三二五、同、二第 一 二 六 三 乃至 一 二 七 二、一 二 七 六、三項、一 二 七 七、一 二 八 二、一 二 八 五、一 二 八 七、一 二 八 八、二項、一 三 〇 七、印 千 八 百 六 十 五 年 相續法四、四四、三三一、加 一 五 七、一 六 二、
紐草七八

第百十七條 第五百九十七條及レ第六

百條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

(參照) 財六九、七〇、八六乃至九五、九七、

取四二七、佛一五三三、一五六二、一瑱獨

一草五九四、五九五、一〇の七、一〇の九、

一二九二、一二九六、一二九七、一三二四、

同三草一二八三、一二八四、一二八六、一

二八七、一二八九、一三二〇

第

八百十八條

夫ハ妻ノ財産ヲ管理ス

夫カ妻ノ財産ヲ管理スルコト能ハサル
トキハ妻自ラ之ヲ管理ス

(参照)

取四二八、佛一四二一、一項、一四

二七、一四二八、一項、一五三〇、一五三一、

一五四九、獨一草一二八三、一三一七、一

三二六、一三二七、二号乃至四号、一三二

八、三号、四号、一三三一、一三三二、同二草

一、二七三、一三〇八、一三七七、一項、三号、

四号、一三一八、一三一九、一三二四、加一

七八

第八百十九條

夫カ妻ノ財産ヲ讓渡シ、之

ヲ擔保ニ供シ又ハ第六百五條ノ期間ヲ

起エテ其貸貸ヲ為スニハ妻ノ承諾ヲ得

ルコトヲ要ス但管理ノ範圍内ニ於テ果

實ニ處分スルハ此限ニ在ラス

(参照)

取四二九乃至四三一、佛一四二

一、二項、一四二二、一四二三、一四二八、二

項、三項、一四二九、一四三〇、一五〇七、一

五〇八、一五三一、一五三二、一五三三、一

五四九、二項、一五五一、一五五二、獨一草

一〇の八、一二九一、一二九二、一三一八

乃至一三二〇、一三二二、同二草一二七

四乃至一二七八、一二八一、一三二二、加

一七八

法典調査會

第八百二十條

日常ノ家事ニ付テハ妻ハ

夫ノ代理人ト看做ス

夫ハ前項ノ代理權ノ全部又ハ一部ヲ否
認スルコトヲ得但之ヲ以テ善意ノ第三
者ニ對抗スルコトヲ得ス

(參照)

取四三四一項併一五三四一五

四九三項獨一草一二七八同二草一二
五七

簿八百二十一條

夫カ妻ノ財産ヲ管理シ

又妻カ夫ノ代理ヲ為ス場合ニ於テハ自
己ノ為メニスルト同一ノ注意ヲ為スコ
トヲ要ス

參照

財八四、併一四二八、四項、一五六

二、二項、獨一草一二七九、一三一七、一三

二四、二項、同二草一二五九

第八百二十二條 妻又ハ入夫カ婚姻前ヨ

リ有セル財産及ヒ婚姻中自己ノ名ニ於

テ得タル財産ハ其特有財産トス

夫婦ノ孰レニ属スルヤ判然セサル財産

ハ夫又ハ女戸主ノ財産ト推定ス

(參照) 取四三五、佛一四〇二、獨一草一

二八二、一三一、同二草一二六二、一二

七九、一三〇九、一三一〇、英千八百八十

二年妻産法一、二、五乃至八、印千八百六

十五年相續法四、四四、三三一、加一五七、

一六二、一七三乃至一七七